

門へ遠13
2208
卷 17

星月夜頭晦録四篇卷之二

目録

○泉小次郎親平いづみの せつじやう ちかひら工藤祐友くどう すけともと討うく鎌倉かまくらと是こゝ

親平祐友建橋ちかひら すけとも けんはしの戦いくさ図ず

○義盛よしみ三浦一黨みづら いちとう九十八人きゅうじゅうはちにん勤功きんこうの替胤長かへいながが恩免おんめんと願ねがふ

和田義盛わだ よしみ三浦一黨みづら いちとうと牽ひて御所ごしよへ推参おしりんの図ず

在柄胤長ざいけい いながと緬縛めんばくし檢非違使けんびわいしへ渡わたさんとする図ず

星月夜頭晦録卷之二

○胤長北條義時と問答大言衆と驚以

古郡保忠荏柄胤長二廐と因

皇朝文獻通考卷之二

星月夜顯晦録四編卷之二

泉小次郎親平二藤祐友と討て鎌倉を退く

兵書小先んたる時ハ人を制するハ利ありと云宣ふるも此度連書
の面々支と発するの後制せんを不国家の大乱るるに千葉成胤
義時と執り事を先んざる故さしも剛勇の胤長も氣は後なる
處あるも由利惟久に欺れ思慮ふも及む始心付るも家と離れ
やとと挿らるる是賊臣天命の辱ざる如き初も行近態と家来の
向ひ由利忠八を取逃せし殘念さよ汝亦何ゆへ止ざるかと叱けしハ
家臣蒼てまに働く中馬を飛せ行方るる落失しと中ゆぞ行
近我ハ胤長が討つるまは惟久ハ取逃を其苦くうらむと家来の命
胤長と引きとせんとする如し平太太の怒る雷の如し声を言らけ



皇朝文獻通考卷之二

已ホ奇怪の狼籍よ及て。察する小逃失る由利あり心と交じり
我と欺汝ホくす。此如へ偽引おせしむらん其の尋問は義あり
使者を以て招きて偽賺し無待の繩とらうと。何者の下知
るもて已ホ武士を捕まの法と知れば定て義時が差圖るべ。北条が
鬘を然る蠅虫に無礼の振舞怒る堪が。我若此に死するは於て
已ら一々就殺して此怒と晴さんと車輪のゴク眼と怒り罵られぬ
百の雑兵共恐慄迫寄者ろく尻込で行近も底気味悪くひら
ど。役自ら言ふ力あり。無事の引立帰らんとも。胤長に向ひ恨むる条
尤至極る。去るるに辺ホが企露顯る及び君命を依り捕まの
役と募りける其も中ふも此辺の討つ小當りて。武士の面目を
云るが。不冷容易勝負更往するもの。かか身ひし。是金く此辺に勇

猛と怒てのこころも。却て此身の名譽もヤべし。某曾て子細成
知る。唯高命に任さるるも必を恨と思ひぬ。状あるが
礼問の耐中兵だあ大法も。無礼のあ鳥に及して。立服の段ハ
免しむ。礼義中々なれば胤長が心氣を直し。行近
引まれ所へ来りたる。既討つ面の面々夫々の相よと生捕。此
所に歸る。時ハ二月十六日君の命も又達する。囚人共並に討つ
の將へ預置礼明も。その内更に然る。根本泉小次郎親平後
舎よ在りて。其在るも囚人の内は共皆か。こよ
申み付。嚴く守監を命せらる。外ハ日斗りを経て親平建橋の
辺に隠居の。注進も依り捕ま。有仰おされ北条義時討つ
をせんと。二藤十郎祐友を大将とて。三百余人の兵と添建橋へ

日本書紀卷之二十一

二



源平合戦

三



親平 佑友 建橋 小 戰 圖

屋月夜四第卷六二

二

差向ふ。留ま未時討めと慕い。此節不勞よして他人の命を
 時に親平の日来の計議空しく。一味の輩悉く召捕まてさうさ
 聞無念骨髄は透るといふも。今ハ我身を人とりし責なりとて
 抱ろ。いふせんと安んずるが今にあり一人存命して益す。と思へ
 とも此後退去せんも早く逃失し一味の輩が怨んぬれも愧ろく。
 亦せん討めと引交快く戦ひ勝と欲得が當所派立退むび斗後
 を廻さへ。叶せん速に討死せんと。覚悟を究已が家来に付親
 平建橋をさうと。怒と注進させ多く。時ハ三月二日。藤十郎祐
 友三百餘人を引具。彼注進せし下郎を案内として建橋を引
 一が是こそ親平が隠家ととちやいふや。さう切らる討めの者共
 何の思慮中も及ば。此比諸將のよ柄におひ我生捕んとをらと

駈入ぬ。親平兼て用意さう。無益の下郎を悉く落さし。あ
 宗徒の郎亦拾余人。弓矢を投せ抱せ。親平自り甲冑を穿
 一。身と固て馬小乗太刀を扱持待居る。討めの兵乱入ぬと十餘
 人の所ホさ。造りつらさるるに材きけふを先に進し討め二十
 人忽ち前砦を奪り。恐て妻とて引親平をさう。雨はは
 と大喝一聲喚つて駈出漂ふ大勢の中。雷の落くるごとく切て入當を
 右へ散乱し。唯狼狽斗ふ十餘人の郎亦共弓矢投捨打物小
 成て主人の跡を引添出く。切伏突伏さう。程に烈しとて討めん物
 る。討めの輩唯後のごく。右往左往に散れ。散れ。一亦は集り得
 ど。藤十郎は辭をうて大にあせり。敵小砦を。前後を包打

捕し。下知し。うづろ矢つぐひ親平を月がけ切。放つ親平元来用心
 くなき不強音と受と方と懸ひ矢とまひ馬と飛し十郎に討てくる。
 祐友是非らく太刀を捨て渡合二三合致。多々敵討叶へた終に
 親平が為と切て落る。大将と討てていよく周章皆承心凶散らう。
 親乎即ち向ひ一旦討てと打散せ。六退去さる共苦くうらば。
 懐念と退去し。付節と待べし隙どく加勢の云出る。前路を支
 塞まると難美らんと。即時に即ち引具し。跡と聞し落失しハ
 勇しに働る。敗軍の士卒追々逃帰り右の旨注進さる。美時大
 小駭き美討て延引せ。落生さるもあへん。諸臣早々召捕すを
 觸る秘は勇功の面々我先中。建橋さ。て奔を。美時又一族
 即従下知し。懐念の出口々と塞親平が前途を支り。えんとて大

勢と分業と時。討ての必建橋。馳着る先。味方此
 死敵を彼に蹂躪し。親平が行方知れ。山中林叢を尋ねるも。
 早落失し。待ゆえよと空しく立帰り。旨申上る。懐念の法且
 東西に弛違騒動大方る。十六日安念召捕す。以来法
 士甲冑と脱の間る。大乱の端。風流け。左國の大長君。所先
 束る。我もくと。懐念弛す。今。法國の騒動。さる。法士
 別當和田左衛門尉美盛當。月より。本領上総國。伊北の庄。休息
 の。眼と。りて。帰國。在る。が。以。法。と。聞。取。め。も。取。敢。を。獲
 倉の系府。其子細と尋る。如に親平謀る。依。諸臣。尋。味
 せ。一。更。露。影。及。び。悉。く。召。捕。れ。就。中。美。盛。が。子。息。美。直。美。重
 并一族胤長。亦。此。連。判。中。で。皆。召。捕。し。と。ゆ。美。盛。仰。天。し。事。不

御所へ罷出君臣は廣く。強動の由兼弛急不処委細の美ハ未美に
 い得ず。愚息兩人其中に在り。驚死入ての系身不肖よりども。
 右幕下大君草創の臣と云。老後の今の至まで君臣三代は仕徳忠
 を勵所ハ君能知。君は知よ。然るに不孝の侍する強乱は與り父
 が教養の功勞空しく。明日とも存ぬ老老は不忠の汚名と云。是る
 糸言。積り及ぶる仕合よ。いと齒と切る。涙を流さる。水干の
 袖と鬻り。君も涙石は美盛が心中。とこそと。君も中も。君も此功
 勞胸多る。君は責て。老心と息をせんと。美盛を近く召れ。此度信泉
 小次郎謀反と企安全と云。僧は強金の諸士を欺騙し。已が一味と
 る。既に其を發せんとせし。中使安全召捕れ。其露頭より及ぶ。其
 依て。一味の連者ある。姓名より引合。同責の非を。君も置る。其方か

子共亦若年ふく。孫も。好謀は欺。と覺。姓名分明。と
 小よ。俱は召捕。とり共。汝が多。年功勞。免。吟味。及。此
 歸。生。篤。是。加。以。後。忠。勤。を。君。も。此。度。の
 汚。多。自。然。と。消。ぶ。と。由。憐。愍。の。言。令。ゆ。て。伊。東。六。郎。同。八
 郎。と。令。ト。あ。ひ。和。田。四。郎。美。重。同。六。郎。美。重。二。入。共。免。許。は
 老。六。と。云。美。盛。面。目。を。詔。し。收。多。を。限。る。有。が。た。仁。志
 と。九。轉。の。礼。謝。り。な。り。て。退。出。す。北。条。美。時。日。未。和。田。美。盛。と
 贈。居。る。の。如。く。渠。が。子。息。共。今。度。の。人。止。と。せ。し。ゆ。美。盛。も。等
 しく。罪。せ。んと。密。に。收。び。多。処。君。一。意。の。由。沙。法。も。ろ。く。由。此
 免。許。仰。付。ら。し。ま。り。心。中。よ。う。ら。憤。は。由。尼。公。へ。中。上。殿。初。め。ら
 函。家。を。受。え。んと。企。す。孫。及。人。よ。と。せ。し。兩。人。由。乳。明。も。ろ。く。助。け

皇代正統記卷之十一

五

あつ。依怙の由斗ひと法人排清して。事の毒よくと祈る事。
 尼公も教をみひ。使をめて。尋る事。あかぬ。君仰らる。
 美盛美重連す。小記まこと。共若奉の輩何の思慮ゆ。父と
 いひ。兄常盛朝盛とも二心る。我ホと補佐してあり。唯彼兩人
 若き。小依く。組せし。と明白る。本心の忠美を忘る。にあら
 む。らて。美盛が三代の舊功。免ト。助け帰し。の孔明と遂る
 よ。助い。父が功。免ま。の禮。あ。と。今と。死罪よ
 あら。同。助。あ。吟味。免。美盛骨髓。悦
 入。然。教訓。かく。此。を。教。せ。め。ん。と。い。ふ。士。ハ。唯
 名。の。後。を。ら。ん。と。成。形。て。強。一。命。の。助。と。示。さ。る。ぬ。ゆ。の。小。い。
 信。く。名。氏。怪。り。し。ん。為。孔明。以前。は。歸。し。ま。し。御。見。負。の

斗ひおゆ。と。心。各。あ。り。尼。公。も。理。の。あ。か。と。思。ひ。百。珠。の。時。政。
 大。逆。の。一。事。あ。り。遠。う。ら。美。ゆ。後。先。と。思。ふ。と。あ。び。言。ふ。と。あ。り。
 美。時。は。初。と。告。め。ゆ。美。時。も。是。非。を。去。る。う。美。盛。美。重。
 一。族。和。田。平。右。衛。門。尉。張。本。を。是。と。云。立。和。田。美。盛。と。挫。ん
 と。二。夫。と。廻。り。居。り。ま。す。

美盛三浦一黨九十八人勤切。香胤長が恩免と形。
 斯く美盛ハ我道に歸り。君の心仁惠に依て。我子兩人罪を免
 せし。有。難。く。ひ。子。供。残。ら。ず。家。の。子。郎。亦。と。集。ま。り。申
 せ。美。直。美。重。と。思。ゆ。け。度。の。奔。騾。を。尋。る。小。兩。人。始。終。と。お。伊。忍。の
 供。と。あ。つ。小。条。一。家。滅。亡。幕。下。故。君。の。正。統。結。ぶ。事。中。と。思。は。す。の。企
 る。今。君。背。く。事。に。あ。ら。ぬ。ゆ。父。兄。の。心。底。も。伺。は。す。と。思。ふ。

量どもも各終らざるに逆臣とばせし口惜と次第とやられれば美盛
大島徳を督く物もいさそあつて今けなす者八皆腹
心の者共何と云ふも他言とてたあふ。うて我存念詰すれん
多ふ愛時小糸の権威誰と悪まご下入。然るも世つもの人の
常。今宗の宿ふ者許多るも。忠と者少く我も疾彼威
権後君家の仇るんを察し。在。誅と加んことをせらるふあらはれ
共。成とほさ。無。祿の企不。及。財。け。な。の。ど。く。却。て。不。忠。と。り。親。手。始
一味の少。赤。神。妙。る。も。も。忍。び。て。逆。は。る。う。美。時。當。財
君の外。戚。あ。て。尼。公。文。飽。ま。を。美。時。と。長。負。せ。れ。母。公。の。威。と。あ。君。の
心。理。を。務。げ。め。方。度。兩。公。と。指。さ。さ。六。美。時。と。村。人。と。さ。さ。不。必。と
君。の。秋。對。と。る。を。別。の。君。と。ま。え。と。ある。一。理。在。る。も。是。誅。及。ぶ。は。

今の武將の天の免せし大將ふて四海人民帰伏し在亦列大
將依るる人民の望亦の背く。是又逆とばせしゆえなり。君の賢明
ふま。り。せ。共。時。母。公。在。中。ハ。そ。徳。と。見。し。あ。こ。と。母。公。の。賢。さ。を
却。く。禍。と。招。く。の。基。尼。公。婦。人。の。牙。を。以。て。國家の政。吏。を。斗。は。し
あ。こ。と。則。敗。亡。の。基。美。時。は。長。負。し。あ。こ。と。の。念。も。よ。の。君。は。見。替
あ。こ。と。亦。有。り。唯。鼻。の。先。代。女。智。の。よ。あ。て。行。未。れ。愁。と。あ。る。あ。こ。と
女。體。あ。る。も。い。ひ。い。つ。る。兵。者。其。理。を。説。く。も。亦。詮。詰。せ。あ。こ。と
按。つ。ま。は。れ。終。り。世。の。交。異。と。相。成。ま。し。此。外。未。然。を。察。し。さ。さ。り
有。り。北。条。家。の。誅。し。が。死。と。知。る。唯。兔。角。一。世。の。忠。美。空。し
う。ら。ぶ。う。う。よ。そ。は。の。外。思。事。あ。る。ま。さ。さ。我。一。族。の。中。他。事。の。誤
と。め。く。也。咎。と。あ。る。格。別。逆。臣。様。と。呼。ぶ。く。さ。さ。り。こ。の。さ。さ。り

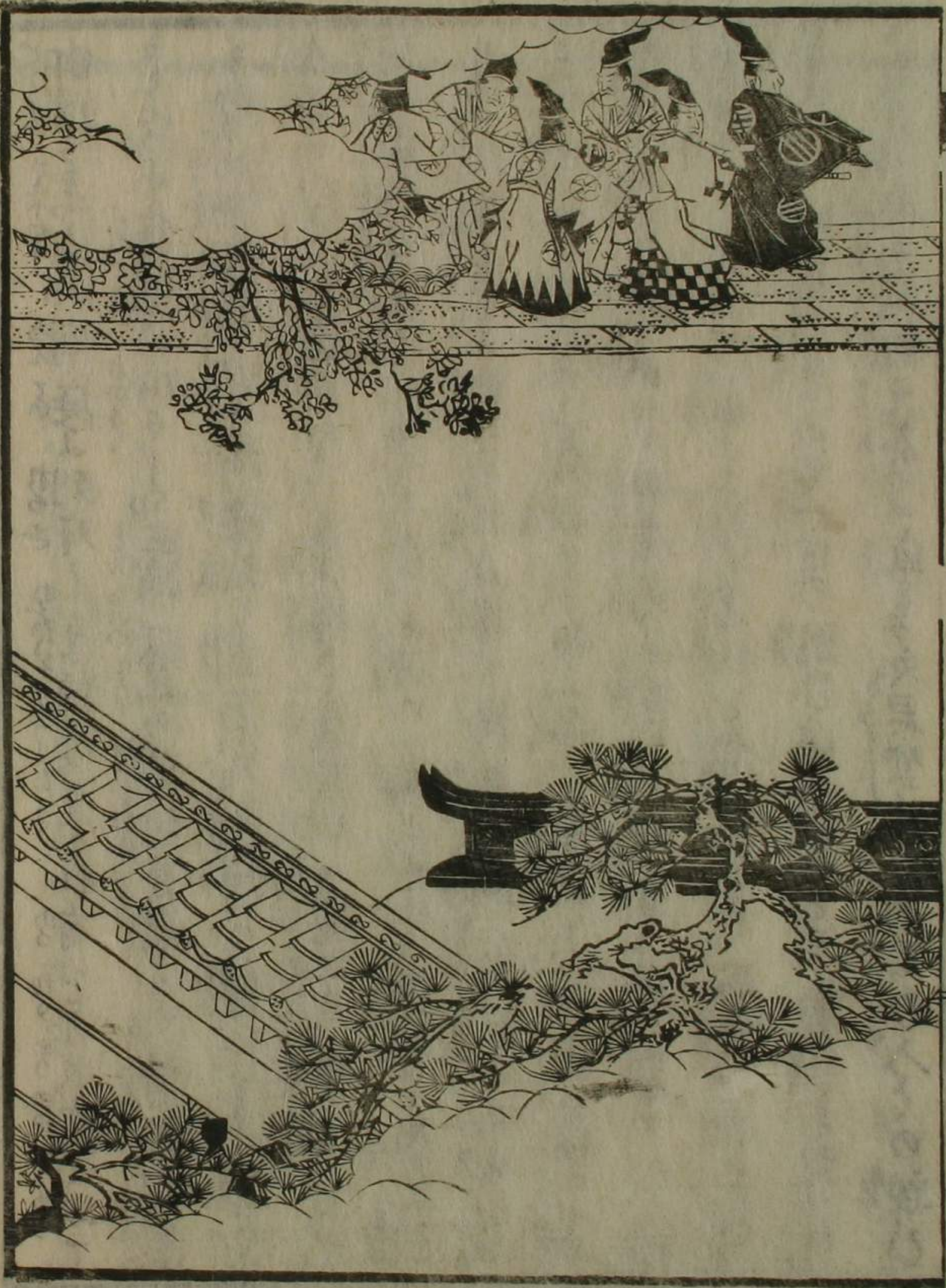
美直美重君の恩免は煩る。汚名を免るるといふも。胤長赤
 囚人と成りあり。いづれもして。渠が罪を宥めたる。一族の功勞に
 依りて免る。我の功勞を。勲功を。預て。速せし。変るる。此度三
 浦一黨の功を以て。渠が罪を。後人を。免るる。此は。あつた。罪
 二あつた。忽ち免るべしと。いふ。一昨日中。此美を。誹謗せし。
 今日の。仕度。此座。限る。死を。子息郎。ホカ。口を。かゝる。あつた。
 座中。其の。論。伏し。あつた。無念の。後。流し。北条の
 誅。難。紙。憤る。美盛。一族。廻文。を。以て。招き。三浦。北一
 黨。土屋。圃。嶋。佐原。の。輩。都合。九十八人。出来。美盛。胤長。が。罪。科。せ
 せし。一。条。紙。袴。下。を。以て。兼。休。美盛。一家。の。棟。梁。を。以て。木
 蘭。地。の。水。干。葛。袴。を。着し。真。定。又。立。三月。九日。九十八人。同道。して

御所へ。系。下。南。庭。は。列。座。一。身。願。度。美。これ。有。の。旨。取。次。を。以て
 せし。孫。其。高。と。仰。せし。三。浦。一。黨。の。願。何。度。申。入。と。致。馬。死。を。承。り
 も。あつた。北。条。美。時。君。の。清。座。近。く。在。り。能。折。々。願。の。か。の。む。こと。を
 支。ん。の。と。こ。こ。様。子。い。づ。と。見。聞。を。美。盛。則。大。膳。太。夫。廣。元。を。め。り。て。
 囚。人。胤。長。厚。免。る。下。さ。る。三。浦。の。一。族。九。十八。人。功。勞。は。拜。見。せ。り
 なる。抑。換。金。を。予。劍。し。今。よ。至。く。数。年。が。間。一。族。抑。も。不。忠。を。な
 せし。微。忠。を。そ。入。し。成。欲。さ。る。如。く。思。は。胤。長。一。人。の。支。は。依。て。一。族
 の。名。を。汚。さ。ん。と。武。士。の。恥。辱。是。よ。何。卒。渠。が。身。を。九。十八。人。の
 者。下。し。あ。つた。永。く。君。の。恩。化。を。忘。な。さ。む。忠。勤。を。そ。せ。べ。
 美。盛。叔。列。座。の。者。も。一。世。の。怨。ひ。は。の。ゆ。ゆ。と。又。餘。り。申。す。も。申
 した。廣。元。此。段。を。承。り。遂。に。如。君。使。り。る。を。以。て。入。り。の。預。ひ



和田義盛
 三浦一黨
 率
 御所へ
 推参れ圖

三浦一黨
 率
 御所へ
 推参れ圖



三浦一黨
 率
 御所へ
 推参れ圖

三浦一黨
 率
 御所へ
 推参れ圖

おととと、百れども。御覧又美並美を、あ人と免許の事、尼公と、あ
執権美時、大法はあらざるなり。頼朝や、せつと、長が、さるにかん
て、あし、頼朝、あひ、の、あふんと、左右、を、水、覧、あり、多、小、美、時、進、公
三浦一黨の、頼余、美、る、と、い、ども、法令、を、破、つ、ひ、き、き、と、成、さ
る、べし。一旦、囚人、と、なり、吟、味、も、落、さ、る、以、前、免、許、あ、り、ん、が、向、後、罪
人の、一族、皆、以、て、頑、と、違、し、免、さ、る、ん、と、を、求、む、べし。同、じ、死、罪、と、一
人、免、し、一人、と、罪、せ、ば、依、怙、の、法、と、る、り。憲、法、た、ち、ま、ち、み、だ、れ。
動、乱、の、基、る、る、べし。況、や、胤、長、ハ、今、度、の、張、本、と、一、て、諸、士、を、勸、免、
連、判、せ、し、む、ら、し、明、白、る、る、べ、其、罪、軽、く、と、ぞ、他人、と、忍、免、せ、ら、る、共、
彼、不、終、て、免、許、の、筋、毛、以、こ、さ、る、り。那、チ、せ、ら、る、と、強、ち、彼、と、思、む、さ
あ、ら、む、唯、法、は、依、て、罪、の、重、軽、と、思、む、の、之、殊、は、他、の、執、成、小、あ、ら、む。

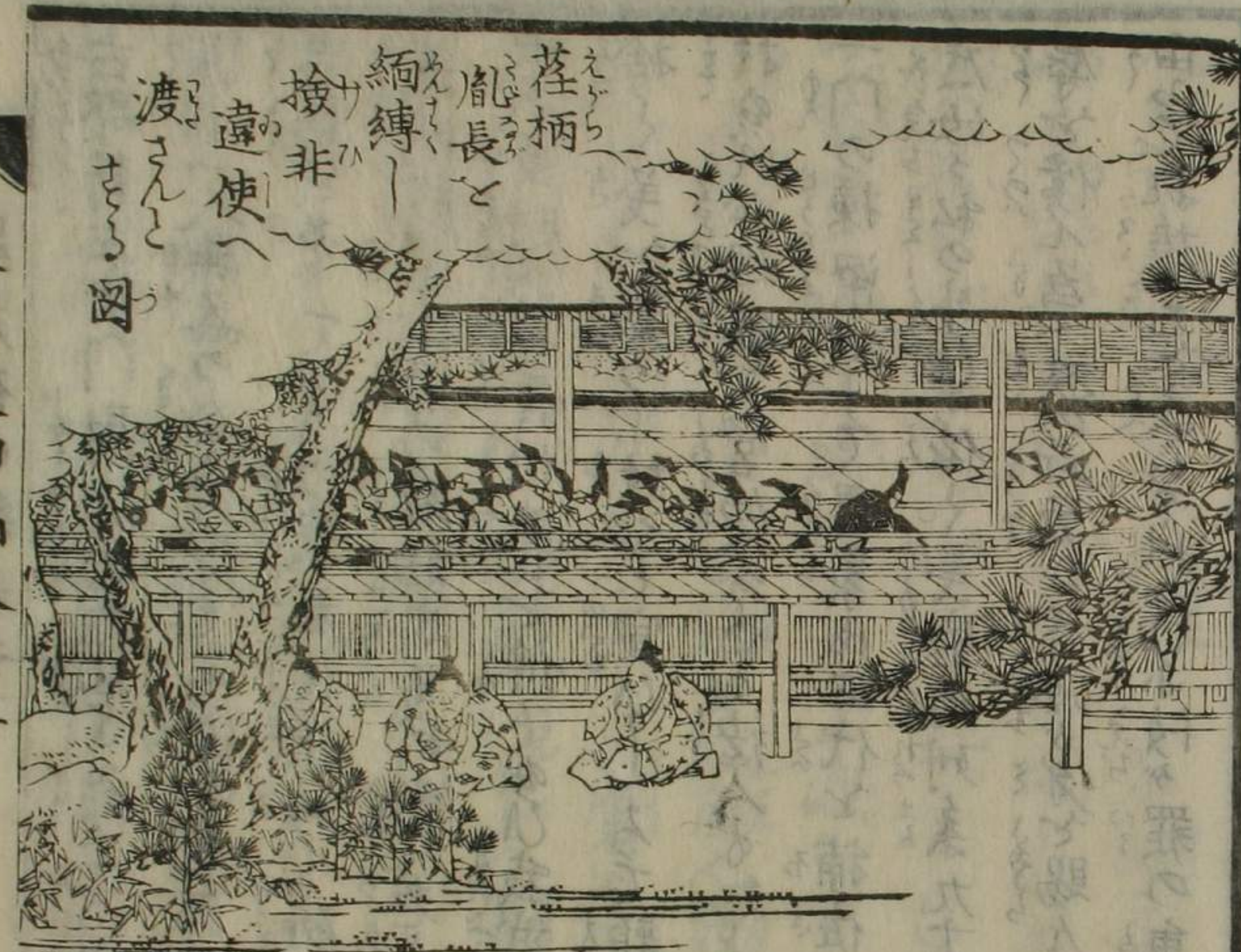
君と傾んと企て、動乱と誘う大罪。あ、り、も、内、々、詮、美、終、て、今、日
預、り、人、ら、。檢、非、違、使、の、へ、渡、し、ま、ら、る、處、也。美、盛、の、願、と、い、ひ、一、族
一、統、の、訴、詔、と、い、ふ、も、憲、法、少、ず、替、ら、る、事、也。故、人、も、其、罪、を、思、ふ、も
人、を、勝、つ、と、い、う。胤、長、前、や、勤、功、有、と、い、ふ、も、罪、の、重、軽、を、思、ふ、も
非、し、及、難、く、と、ん、あ、り、尼、之、一、應、也、相、談、有、て、憲、法、は、叶、え、道、道、有
バ、免、許、る、事、と、い、ふ、事、も、あ、ら、む。引、ら、る、ら、ね、ば、や、う、と、又、君、を、あ、ら、む、心、と
悩、み、あ、り、先、母、之、伺、ん、と、い、ふ。使、を、あ、ら、む、事、也。此、間、は、美、盛
胤、長、が、逆、心、る、事、也。詔、を、あ、ら、む、事、也。是、を、い、ふ、時、ハ、我、々、も
同、類、の、事、也。抄、に、ま、え、る、事、無、会、多、し、と、皆、く、胸、を、磨、り、美、時、完、前
も、の、初、我、々、に、募、り、云、分、る、事、也。理、不、似、し、の、水、を、以、て、當、然、の
理、を、云、掠、ら、る、事、也。伊、の、カ、ら、る、君、の、明、察、と、冀、ん、と、欲、し、終、る、廣、く、
三、月、庚、辰、口、扁、春、二、一

就て。全く此法を犯し。罪と宥るらん。願ふ如くあらば。予を死す
 究る罪人も命乞の品より宥免しめんと。古今例尋し。胤長罪有
 とりて。死刑の内沙汰申す。諸士別當の美盛一族を誘引して
 此願ふ乃よと。憲法に拘らむ。政道の妨るる。孤君の内明察之仰
 願ふ如く。予職に在るが。争ふ非美の願と。信ふ如く。唯此賢慮と
 以て。九十八人愁眉と。披の道と。山下知仰如く。心と込て。折
 尾公和田願ひ。仰山より。閑し。百君と。愕う。押て。免許と。死
 のめり。怒り。台。ら。小来。ひ。始終。と。申。安。わ。る。如。美。時。則
 美盛初。も。預。唯。今。再。び。申。す。如。一。と。申。す。不。尾。公。宣。ふ。古
 老の美盛一族と。率て。願減。と。黙止。が。と。申。す。胤長。ハ。儀。舎。に。在。て。
 今度謀叛の棟梁と。う。ち。と。斗。畧。と。理。を。由。て。不。美。盛。前。々。此

功勞有る。今胤長。純明。う。差。免。され。武將。暗弱。の。故。と。少。法。を
 申す。一。と。判。官。の。よ。と。渡。し。禁。を。加。く。後。ハ。中。も。斗。と。死。不。定
 する罪。う。共。穿。鑿。と。免。さ。れ。釋。す。我。婦。女。の。身。を。共。故。君。の
 内。在。世。の。か。ら。れ。仕。事。の。閑。つ。と。美。盛。諸。士。別。當。と。て。老。臣。の
 列。を。以。て。遮。と。免。許。と。願。ふ。糸。心。得。む。尤。武。將。不。放。す。由。味。略
 あ。ん。と。と。政。道。不。依。恃。有。て。何。と。以。て。万。民。を。帰。伏。さ。す。と。死
 尋。常。と。す。謀。叛。の。罪。科。容。易。斗。と。申。す。あ。ん。と。と。作。ら。る。ゆ。を。
 君。ゆ。も。う。あ。る。道。理。を。申。す。是。と。同。く。申。す。美。盛。が。願。切。る。れ。共。在。死
 免。許。の。責。も。い。く。と。申。す。替。り。時。日。と。相。待。へ。追。て。必。死。せ。ん。と。宣。ひ
 と。北。条。美。時。引。取。と。今。日。山。城。判。官。へ。引。渡。し。純。明。と。申。す。と。い。ふ。
 先。進。と。申。す。付。あ。る。美。時。一。旦。渠。が。と。渡。し。そ。後。中。沢。の。足。も。有

願。四法之立小於之。何ぞ各の願を空しくせしむ。唯今金窪
 兵衛尉囚人胤長と引來。其は檢非違使へ相渡さん。各中
 胤長が辨と申覽有べし。惣して此度百捕り輩。皆後悔の元有
 とし。平胤長を人強きゆて無礼の責のつ。良も其有司
 二對し悪口をさす。是も罪の通る。斯きものあるらん。左
 根の者何の禁もろく免件ある。君の内威勢る。似たり。罪人
 ホ又是より。有司無礼と云ふ。以て法の破と成
 尊。然先各々方へを疑を散ぢり。且親身は教訓と
 する。胤長を引來させ。預り人金窪兵衛尉行近
 より。山城判官行村が。相渡させんと。此旨下知。傳へ。美盛
 が眼前を引渡させ。面目を失はせし。為云。巧は申述。時よ。思て

美時が斗ひめて。君より一旦尼之伺せ。其間より。苦さ。合金
 多。金窪行近。在。柄平。胤長。禁。士。率。繩。取。其。身。ハ
 跡。引。副。大。度。引。雪。山。城。判。官。是。と。結。丸。ん。と。出。奉。り。扣。在。三
 浦。の。輩。是。と。胤。長。が。身。を。面。傳。せ。れ。一。門。九。十。八。人。の。座。前。を。引
 渡。し。一。回。は。面。目。を。失。ひ。其。を。握。り。無。念。の。涙。を。添。し。多。中。也。棟
 梁。の。美。盛。斯。ま。で。我。を。怪。し。む。て。其。あ。る。は。ど。と。思。ひ。し。は。胤。長。ま。た。え
 ある。一。族。列。座。の。場。は。於。て。然。し。恥。辱。依。与。ん。と。あ。る。老。年。に。及
 諸。士。の。列。當。と。も。職。と。し。ま。う。る。愧。を。忍。び。何。の。面。皮。も。そ。再。び
 法人の邊へ。無念坊。怒の眼。涙を。流。死。白。髪
 烏帽子。五。街。五。將。の。汗。水。子。と。浸。し。座。辺。も。動。く。得。た。身。と。震。し。齒
 と。切。なる。形。勢。と。ん。ふ。堪。多。一。族。の。内。は。万。夫。不。當。の。荒。者。と。呼。れ。し



荏柄 長
 緬縛
 檢非
 遠使
 渡

三日月夜四巻之二



十四



三日月夜四巻之二

十三

古郡新左衛門尉保忠大序不飛で下胤長小向ひ仕ゆるまゝ一族
 隠し一人無益の企むつぞ。三浦平左郎為健陸奥守美家公小後ひ
 忠勤とおしてより以来君臣相和し御も不忠の志と揆む殊に大助
 義明故幕下君の最初忠美の為に老令と後とけゆに右幕下在
 世ふ美明が追善供養と修しあひ我武將とありし支備大助が令と
 捨く美を勧めし故と宣ひし。よて頼家郷當君より御て猶此美と
 持ゆに必追福と宮加ふこと。諸人も知し亦之美盛父祖の忠美と交徒
 一門の棟梁として君家也三代と補佐し。一族の美名を揚る然るに
 度汝が私の身ひ依く。美盛殆列系九十余輩皆面目を失ふ。此私
 辱を憐れ為一族の功勞又替汝が身を賜んことを私との共謀及の張本たる
 由之執権とをまらせし切小汝が罪の重き成筆らむ我く右領の為

列系せし面前あて。判友のよ小渡さんとまをせし。酒傳の位を
 渡さる汝は角らるる罪をば愧し尤もふたが。美盛肇九十余入
 汝が罪を宥めんと。訴はせし出さるひのり。却てんが。其後
 のあめ。檢非違使のよ。渡さるる。一族の孤辱先祖の名に
 汚不美不孝。之語は終る心底に汝を捕とて。つとむ。うも
 君とけり。その企む。天魔の亦為あて。不忠の心を。せ
 あや。汝は限り左衛門の悪莫巧も。た者し。謀及人を。一後の名と
 織と曲者。君又君と謀を。その企む。清及。祿。て。速。不。伏
 せ。左もる。先祖の。次我が。親て。捕殺し。九十余人不忠と
 存せざる。澄よ。取なわ。大の眼と。悲し。腕
 をま。殿中。言。是ハ。保忠美時が。差。と。胤長小

わて付當時北条と亡ん企とヤセよとまゝと附の綱と美盛も保忠
カト条出来しと心中恨び列座の一族ホも能くもつるもの
胤長も返答いふと空喝と飲む批居る

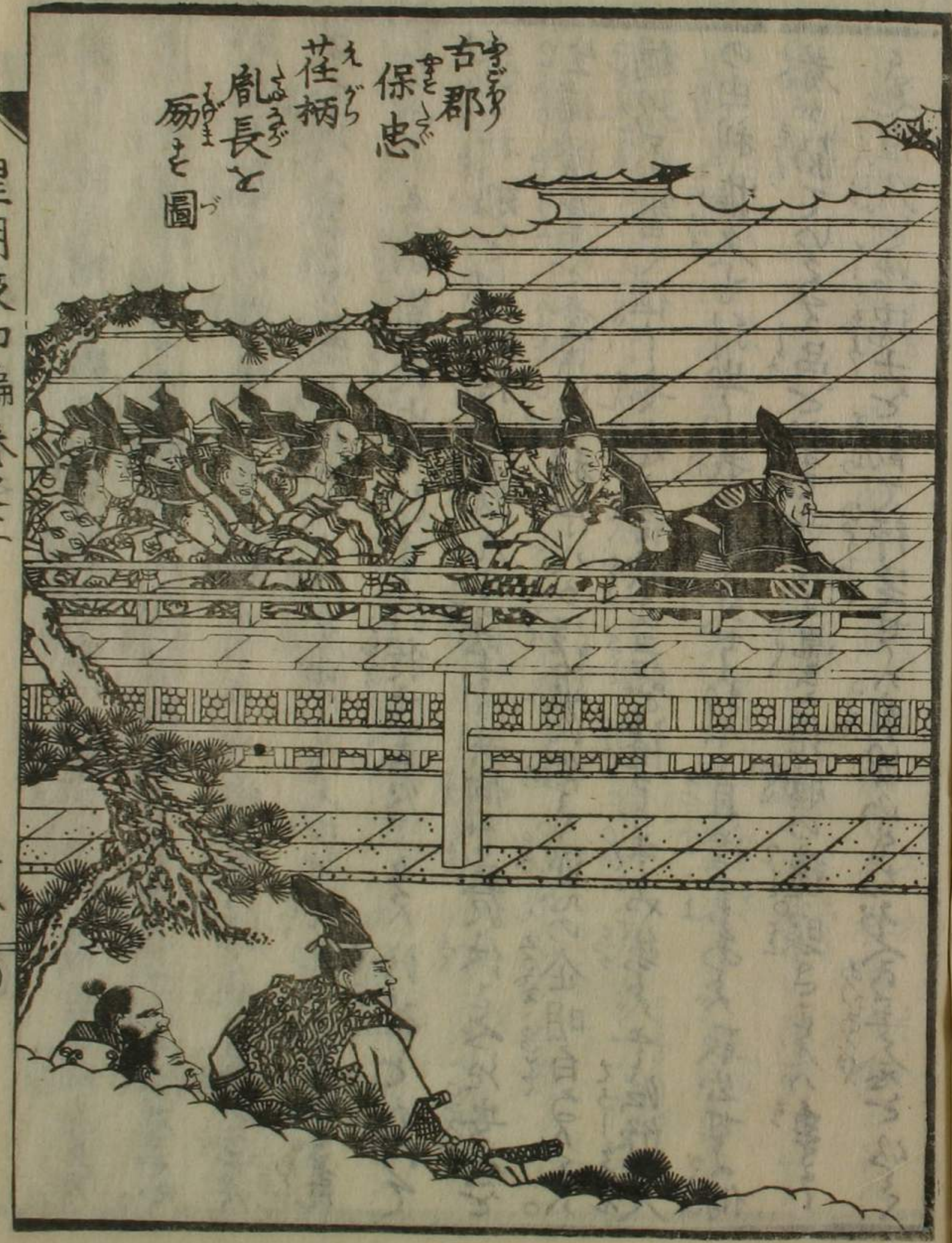
胤長北条美時と同答大言衆と驚愕を

荏柄平太胤長保忠が綱と彼彼と等しく縄取を引立端近に進
寄保忠が憤一族の怒ひさるるが。唯奸者の綱と彼彼と結る
故る我何の故不忠不美とあふべし。是よつて我も又不審あり。今
かく存とるるも何ゆて之を必とあふ。夫るる金窪兵衛
大勢を引具。我と勢をさす存の縄とけ故子細と定た清の同
密に内バ君とけの逆臣とて罵る。定て是ハ奸者此所為るると
密に定て之を必ととるるとあふ。捕れる分此諸人は對面吐されバ。

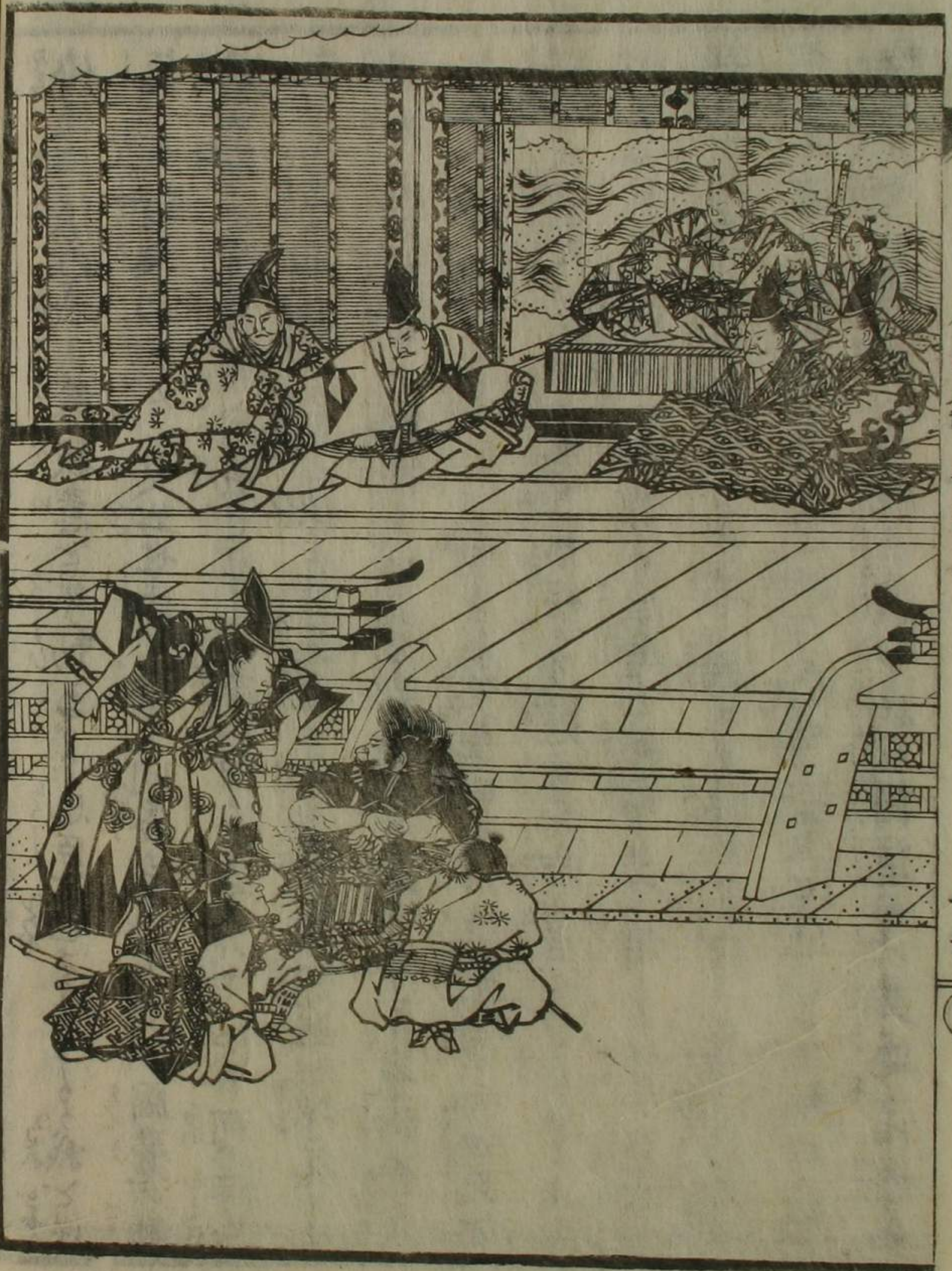
倭人の為に死せんと欲。無念よ多ひ居る。今も今日
君の内前といひ老臣系集一族群衆の席に於てけ美を云さん
定ては堪おさるに不審の支のそ同答。子細とす彼ての。何者
依りて捕捕るる。又ハ逆臣とて罵る。何者此海と云
ぞや。後倉の執権と勤らる。北条美時。跡るに夏ハサされ
す。も據言せし者を出さる。我と對面とす。古より罪の疑
しに刑せし再復し。明るの大法。一息の礼回。清及の張本
る。理不盡とやいふ。人の仇と以て償と。罪科を定む。忠臣
ハ皆倭臣と亡さる。是と憲法と云はれ。金窪とて武士と捕る
法さる。兵衛下賤の輩。却て逆臣。一味。我と勢を定た。不詮を
実と云ふ。彼も。胤長子筋の徳。ゆるる。政道。可らる

無法の成敗を請ふるも早く右の沢と申すは理不吐る罪小伏
 一。只と聞てみと受ん左るふ君前よ実吾明よ二言と死と叫ぶる。
 美時怒て汝も憐れ成ても。争ひ暮んと欲るや。平く係殺と企
 徒黨を衛ひるも。覚るうと澄扱すくも。あての責るも。汝と乳
 向せざるも。胎よ明白の澄扱君のゆよ入り。乳明よ及ぎまらる。
 殊よ不敵の汝乳向あてや。まじき。此魚よ山城判官う。まは後。
 獄小下して拷問有下と。今日の事不及する。を罪隠すとい共。得てく
 非と改子悔して罪を謝する。一族の那らひ。前よ此微忠よ免ト思
 君も有るや。今よ及でも。控心と改ら。却て。後人好者。此不為る。自分
 の悪と他よ憐んとむ。と。糸罪科のまらるも。初らる。長の心底うると
 嘲笑ひる。胤長居丈う。小成て。美時と。碇と。白眼汝執権の威よ

傳也内縁の威よ募我意と。動らる。忠臣と亡さんとす。我と逆
 臣と云證拠あぶ。今ら入。出せ。夫と以く。回答す。あ。い。厩魔の廳
 前よ出るとも。我精忠動せ。と。泰山の。と。る。バ。沢。何の。怖。長
 あ。ん。君の。御。前。よ。忠。と。侍。との。黒。白。と。下。ト。幽。家。の。逆。賊。と。現。さん。と。
 我数年は。願。ふ。と。澄。扱。と。い。う。もの。ぞ。早。く。出。事。と。言。御。面。白
 と。や。う。と。い。ふ。や。う。と。嘲。笑。一。君。多。あ。で。美。時。い。く。怒。を。発。し。汝。死。と
 究て大言と吐といふも。今。明。ら。澄。扱。を。出。の。廣。云。と。止。ま。ま。と。い。ふ。
 夫。も。で。も。う。く。汝。泉。小。次。郎。と。合。辨。し。安。念。と。言。僧。と。言。淡。に。接。舎。の
 諸。士。と。接。ひ。し。と。悉。く。出。せ。小。達。し。然。も。そ。法。師。先。達。と。石。捕。山。城。判。友
 が。ふ。小。は。一。蓋。夫。の。こ。ろ。ふ。と。汝。亦。と。一。味。し。度。と。言。由。利。中。八。郎
 惟。久。天。命。と。言。ひ。先。非。と。悔。志。と。以。て。訴。出。隱。漆。の。次。才。逐。一。出。せ。小



吉郡保忠



吉郡保忠

達せり。汝に捕らるるも、亦た欺きと唯一人逃出。今此繩目及たまふ。身は先有るが、汝が身誤るんば、何の故強奪と云ふべし。かたより、潔白の罪なきこそ。獄に下さるる如く、憲法を執て罪を以て。ふか明らるる美と行ぐれば、汝は是れゆても、又口を屏んとするを、荒らふ中々、胤長もひまは、控方多々。汝推とゆて、忠と折衷を以て、理と度んと欲する。共何をまひ伏せし。安会を生捕澄書を奪ひ、由利中八が、復進の儀、逆心の企、明白なり。猶以不審之、但し安念が、向状は、君と係り、三々や、然るが、法外、人の由利、惟久も引せ。我と對せしむ。且澄書あぶ、取出せ。何者が、勸ていさるる品と、皆て共、身は曇る。胸の鏡、照さるる。是唯久を、始、法士を勸て、評定せ。我の、ゆも、ちびる。安念を以て

使とせり。夏も我、命ぜり。如き、泉小次郎と合、併も相違う。夏より、然共、汝逆臣と、と、旬、条を以て、奇性。我、法士を、誣め、り。國家の、為、君の、心、為、萬民の、為と、多し。忠の、中、毛るる。逆臣と、と、多し。罪せん。と、さるる。逆臣と、さるる。兎角、論よ、ち、早々、澄書と、多し。之、明らるる。忠と、逆の、祝と、や、安を、ま。唯、口と、を、を、辨は、我と、非、又、澄さんと、さるる。非道、此、さるる。汝、廣布の、交、断、及、ん。と、欲、せ、其、澄書と、ゆ、我、が、罪と、演、説、せ、し。我、と、さ、ん、憲、法、に、叶、へ、し。君、出、速、し。ゆ、み、る。如、る、身、は、是、れ、よ、る。明、白、あ、ら、し。澄、人、中、老、目、の、面、々、列、座、さ、り。少、し、ゆ、ても、曲、ら、る。多、と、以、て。理、を、破、る。と、さ、る。と、叫、び、鳴、り、多、し。右、郡、新、左、門、保、忠、心、地、と、さ、る。ひ、猶、も、胤、長、を、勵、し。一、門、の、恥、辱、を、雪、ぐ。其、方、が、是、れ、よ、り、あり。是、る、ゆ、も、大、恐、ろ、う。一、切、世、に、執、権、も、不、道、の、糾、向

るんべ國家の政勢まぐるどむ澄書あぶ取ゆらんやあへ君の
内連字りるる処げの明白あふとと苦をとりゆた。我時無念の怒
忍ひがぐるるも。件の澄扱ととも連判状今胤長やよ付て能るあへ
武將多と謀りあう。我時明白るね。取ゆるもいつわあふんとま
當惑のまゆゆめて。存中まらみまらるる。尼公寂前より。廣と
至同まを。彼居多ひぐのどか。くあひあふあ。我時とらまるとの
連状と取寄。渠が罪とれま。血判居る澄扱の誓状何余争ふ
このるえた早々。渠よもまらと。と催但あ。君も同じくま。臣
以て澄扱とれ。まを交ひま。けり。作あるる。あ。我時若
る。完事あ。ちひるる。件の連判と取寄。姓名と一々。澄あ。り
か。つ。に。徳。黨。と。結。び。動。乱。の。企。と。す。我。ひ。募。ん。と。後。の。各。字。ま。の

罪科ありと申す。胤長と安を連判状を以て我と逆臣と
云。更に胤長の足らる知と。や。安。と。保。忠。が。方。小。向。ひ。ま。方。あ。の
連判を乞て。我前めて。う。う。不。澄。ま。は。一。字。一。張。遠。ま。ら。う。始。末。と
清。ら。る。財。入。自。由。と。明。白。ま。ら。る。ま。と。や。ゆ。た。保。忠。頼。り。我。時。小
向。ひ。皆。連。判。を。渡。し。ま。ら。と。や。せ。ら。る。美。附。の。ま。く。大。切。の。澄
書。囚。人。の。不。縁。あ。る。ま。ま。渡。ん。溜。る。胤。長。ハ。胤。長。ハ。一。張。る。れ。ば。
ま。ま。清。ら。る。れ。ば。あ。ら。は。と。ま。と。右。右。寄。て。不。澄。ま。ら。あ。ま。保。忠。大。ま
ま。と。切。り。我。推。の。詞。も。ま。ま。あ。ら。と。ま。ま。の。う。ま。あ。ら。ま。ら。
老。臣。辱。り。群。衆。一。ん。安。あ。の。如。く。於。る。何。ぞ。作。の。あ。ら。は。や。我
所。所。よ。あ。ら。く。ま。連。判。と。清。ハ。胤。長。ハ。一。張。用。る。と。若。一。字。も。清。扱
ふ。あ。ら。く。ま。胤。長。ハ。一。張。あ。ら。は。列。府。の。一。族。亦。罪。を。ま。ま。一。張。推。し。入

既^も又^も結^むれ存^ぞの澄^みま^るる^もと^もな^らぬ。然^もん^が我^がは^は渡^り一^は積^りあ^らら^しむ^るが^は潔^く白^くと
 尸^のあ^らる^も。由^り渡^りる^もハ^ハ胤^の長^がを^を罪^を明^く自^らと^とど^と却^て執^し推^し終^るあ^らふ^も似^しら^ると。
 理^をを^を責^める^もア^ハ々^々ゆ^ゆを。善^き時^を止^むと^と必^ず得^るむ^も保^つる^もは^は連^すま^ると^と相^あ磨^りる^も先^に
 刻^りの^の同^じ者^を胤^の長^が聊^も屈^{する}ま^るる^も多^しら^る。大^き言^を止^むら^るる^もハ^ハ非^はと^もあ^れ
 不^ふ敵^のの^の別^べ勇^を滅^すは^は大^き丈^を夫^をら^ると^と君^をら^る老^い目^をまで^で敬^む馬^をを^をら^るる^も連^はと
 凌^らる^もと^とい^はれ^るあ^らんと。群^れ系^のの^の務^をを^を胤^の長^がを^を打^つり^てお^お互^をら^る。

星月夜頭晦録四編卷之二終

